

自己実現 2019

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

[A%・B%成績]

3年生の実力考査は、成績結果を「A%」・「B%」という数値で表示します。さらに、その成績にもとづき神戸高校独自の可否追跡調査を行い、資料を作成しています。

「A%」成績は次のように算出します。

文系 (国：200+英：200+数：200+社：200+理：100) / 9

理系 (国：200+英：200+数：200+社：100+理：200) / 9

◎第1回実力考査は、「倫理、政治経済」が未実施なので、それを除いたデータで算出しています。

「B%」成績は、校内実力考査(記述模試)のデータのみ利用し、次のように算出します。

文系 (国：200+英：200+数：200) / 6

理系 (英：200+数：200+理：200) / 6

可否追跡調査に用いる総合成績は、第3回～5回の実力考査の各科目の平均を算出し、「A%」・「B%」成績の算出式に代入します。

「A%」成績が5教科の総合的な実力(センター試験の得点状況と密接な関連があります)を示すのに対し、「B%成績」は国公立大学の二次試験の実力を示す数値です。

[第1回実力考査教科・科目別講評]

〈国語〉 平均点は模範解答、解説に記載の通り。今回は特に実力問題での低さが目立った。これは、みなさんが来年入試問題に挑むにあたり、このレベルに照準を合わせてほしいという国語科からのメッセージである。簡単に無解答で終わらずに、自分なりに導き出した解答をしっかりと書いてもらいたい。今回は課題部分の文章(配点80・平均33.5)は比較的良く解答できていたので、実力問題についての講評を簡単に記す。

実力問題(配点110・平均28.1)。現代文に関しては、抽象的な文章であるため、内容を把握しきれなかった者も多くいたが、それと同時に設問を一部分だけ読んで解答しようとする習慣がついてしまっている解答も多かった。まず全体を読んで趣旨を把握し、その後に各設問に取り組みないと、設問ごとのつながりもわからなくなる。点ではなく線で文章を把握する習慣をつけよう。古典はいずれも最初から無理だとあきらめずに、まずは大意の把握、そして部分の理解をしていくと、より高得点が望めるのではないか。それと同時に基本的な知識の習得をおろそかにしてはならない。文法・単語・句形、遅れている者はすぐに取り組むこと。おすすめ参考書は「羅針盤」参照。

最後に、課題の漢字、古文単語(配点10)の正答率が低すぎる(平均2.7)。漢字は簡単でも、語句そのものを知らないとは解答できない。これは大阪大学の漢字の読み問題などで直接問われるし、そもそも知らないとは文章の読解もいい加減になる。現代文・古典ともに語彙力を増やすことは、神戸高校生毎年の課題である。

〈数学〉

今回の平均点は、文系(課題42.4/80点(53%)、実力23.5/120点(20%)、理系(課題29.1/60点(49%)、実力36/140点(26%))であった。文系・理系の共通問題は「確率・ベクトル・微分積分」の3問であった。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

[自己実現2019]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

文系 **2** (数列) は易しい問題 4.1/30 点。 **3** (ベクトル) は標準的な問題 7.2/30 点、 **4** (微分積分) は標準的な問題 9.4/30 点。 **5** (確率) はやや難しい問題 3.3/30 点。

1 学期の間にベクトルと数列の基礎を固めることを優先的に指導する必要がある。また文系にとっては、苦手な整数問題や確率にも慣れていくことが求められる。

理系 **2** (確率) はやや難しい問題 6.1/30 点。 **3** (ベクトル) は標準的な問題 7.2/30 点。 **4** (微分積分) は理系にとってはやや優しい問題 14.1/30 点。 **5** (極限) は標準的な問題 6.6/30 点。 **6** (複素数平面) は難しい問題 2.9/25 点。普通科理系と総合理学の差が大きい分野は、数学Ⅲ。総理は数Ⅲを2年で終えているので、この結果はやむを得ない。普通科理系は1 学期では数Ⅱの演習でどれだけ数ⅠⅡABの基礎を固められるかがカギ。数Ⅲは2 学期からの演習でカバーしていきたい。総理は学力の個人差がかなりあるので、個人個人に必要なレベルを見極めながら、数Ⅲの演習に臨みたい。

<英語>

筆記 平均点 82.2 点 / 200 点 リスニング 平均点 33.0 点 / 50 点

【リスニング】 33.0 点 / 50 点

平均点はまずまず。最終的には40 点を目指そう！正答率が低かった問題は復習しましょう。今年のセンターは少し難化したように、来年もより柔軟に対応できるようにしましょう。

【発音・アクセント】 9.2 / 20 点 (45.8%)

発音、アクセントを意識して単語の学習をしている人も増えてきましたが、今後は派生語との発音、アクセントの違いにも注意してみてください。とにかく自分の口と耳を使って繰り返し覚える努力を。

【文法・語法】 17.2 / 40 点 (43%)

DataBase や GRAMMARMASTER、リンケージからの基本的な問題。単語熟語は地道に覚えていこう。

【表現・英作文】 12.4 / 40 点 (30.9%)

(A) の整序問題は、これまでの結果よりも若干ですが正答率が上がりました。英語の構造や相關的な語句についての理解が確実なものになってきている人が増えたせいだと思います。

(B) は英文和訳でした。難易度の高い問題ではありませんでしたが、正答率は低かったです。確かに文法的に正しく書こうという姿勢は見られるようになりましたが、まだまだ不十分です。その一例が、I am proud of のあとに that を書く人が多かったことです。節と句の区別を認識していない、つまり理解できていません。これは基本項目です。また簡単な英語の表現についての知識が足りていません。たとえば、「キャッチボール」、「語彙」などの英作文頻出語彙がきちんと書けていませんでした。正しい英文が書けるためには、スペリングや正しい文法・語法に注意するだけでなく、英文そのものを覚える例えば、2 年次に使用していた『リンケージ英語構文』の基本例文だけでも暗記するといった作業が必要です。

【長文】 43.5 / 100 点 (43.5%)

【4】～【7】は春休みの課題からの出題。正答率もそれぞれ半分を超えていた。【8】【9】は実力問題。【8】最近話題の AI、自動運転車に関するニュース記事から。「『止まれ』の標識に ステッカーを貼れば」が理解できていない人が多い。正答率は 24.1%。【9】「社会生物学」に関する話題の一部から出題。本文は、一文目が仮定法から始まり、「もし異星人が、大昔の地球に来

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現 2019] など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

たら…」というシチュエーションが理解できれば、話の展開としてはそれほど進展しないので、内容もとりやすかったはず。正答率は28.3%。

英語の長文は、題材が多岐にわたっています。自分が得意な分野、既知の内容であると内容理解もスムーズにできるはず。普段から、日本語でも様々な分野に興味を持つこと、また様々な分野の英単語に触れることを意識しましょう。

<理科>

物理

全体の平均点は31.4点（普通科29.3点、総理41.0点）でした。1力学、2熱、3波動から出題しました。特に1の力学分野の得点率が低かったのが気になります。力学は物理学の根幹の分野なので、内容の理解と十分な演習が必要です。2の(1)(2)は基本法則を適用すれば解答可能です。3波の干渉条件をしっかりと復習してください。既習の分野のレベルアップを各自で計画的に図り、また、授業→復習のサイクルで授業の内容を消化していただく。

物理基礎

平均点は19.3点（平均得点率38.5%）でした。各問題の正答率（%）は、1(22.9)、2(31.3)、3(54.2)、4(29.2)、5(25.0)、6(58.3)、7(81.3)、8(45.8)、9(18.8)、10(52.1)、11(29.2)、12(20.8)、13(22.9)。既習の内容ですが、授業を大切にして、もう一度思い出したり、理解を深めていきましょう。

化学

実力考査としてセンター形式も記述形式も入試のレベル（第1回なのでやさしめ）で出題しました。点数から判断すると復習が十分でない人や、わからない箇所をそのままにしていた人が多かったのかもしれない。間違った問題は解説プリントを読んで理解したら、必ず解説を閉じて「計算も含めて自力で正解にたどり着けるように問題の解き直し」をやってください（やらないと同じミスを繰り返しますよ）。「化学」は暗記事項の多い積み重ねの科目です（3年からは重要物質の学習になり暗記事項がさらに増えます）。3年の学習にきちんと取り組むとともに、次の6月実力考査までに早目に2年までの理論分野の復習を進めましょう。また、今回の試験問題で時間不足になった人は普段から問題を解くスピードをアップさせましょう。

化学基礎

平均点は、全体で23.6点であった。今回は第1回ということもあり、基本的な内容を中心に出题したが、忘れてしまっている人が多いようである。今学習している分野のみならず、先取りして幅広い範囲で学習を進めてほしい。

生物

大問3は、誘導に関する問題でAER、AM、分化の方向、発生段階など、考慮すべき点が複数あったため、正答率は36.9%（平均4.4点/12点中）であった。大問4は、遺伝子の発現に関する論述を含む問題で、正答率は37.1%（平均14.1点/38点中）であった。スプライシングと選択的スプライシングの違いが不十分な生徒が目立った。

生物基礎

平均点19点、最高点47点でした。大半の人が忘れていたことが多かったと思われます。70回生のセンター試験の結果は半分以上の人が45点を超えていましたので、このゴールを目指してしっかりと生物の学習を始めてください。

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現2019]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

<地歴>

世界史

既習範囲全てより出題したため、知識の定着度が明らかになる考査であった。単純に語句を問う問題、正誤問題、論述問題(理系はなし)を出題したが、選択肢の紛らわしい問題も多かったため苦戦していた。ダミーの選択肢を見て、実際の受験で出題者が「ひっかけ」てくる語句を見極めてほしい。自分が出題者ならこうひっかけるという視点を持ってほしい。さすれば、正誤問題はお手の物である。

日本史

講評の前に出題ミスがありました。すいません。大問3の設問12の選択肢に正解がありませんでした。正解はI・III・IIです。

原始・古代、近代、現代史の3分野からの出題で、平均点は文系47.1点、理系46.7点で、以下に述べる現在の大学入試問題の傾向に即して出題しました。

原始・古代史は、旧石器・縄文・弥生の考古学的資料を題材とした出題、小国の成立からヤマト政権は文献史料からの出題が重要です。それらの史・資料は限定されて非常に有名なものばかりなのでしっかりおさえること。近代史は、時代別の出題頻度が最も高い分野で、内容も濃いので丁寧な学習を心がけること。特に、立憲政治から政党政治の発達と崩壊に関する政治史、日清戦争から15年戦争とそれに関する外交をしっかりおさえること。現代史は、センター試験では例年3問程度の出題であるが、現役生のブラインドになりがちなところなので、差がつく分野でもあります。

誤字が非常に多いです。書いて覚えて正確に解答できるようにすることを心がけてください。

地理

平均点約48点 2年生の時に学習した分野のはず、自然地形はまあまあ、気候の問題が出来ていません。気候は大気の循環と地形を理解すればそれぞれの場所の気候区を覚える必要のないものです。そこをしっかり覚えて下さい。2年次後半で学習した都市に関する問題も、これは覚えておかなければいけないもの(例えば日本とイギリスのニュータウンの違いなど)をしっかり押さえて下さい。

[後記]

3年生になって初めての校内実力考査の結果はどうでしたか?人によっては2年生のときの成績から、かなり変動がありました。日々の取り組みの違いが少しずつ積み重なって大きく成績の差に現れたのだと思います。次の校内実力は6月13(水)、14(木)です。その前の6月1(金)放課後と2(土)に校外模試(マーク)があります。今回の成績に満足がいかない人は、自分で1か月の計画をたてて、次のテストまでに着実に学習をすすめてください。進路指導室前においている『**学習記録表**』も活用してください。テスト結果が今一つだった人は「人と比べて自分を卑下するのではなく、昨日の自分より一歩だけ前進していればいい!」と前向きに考えよう。

新入生が部活動に加入し、部活動にも活気が増えています。後輩たちに技術面だけでなく勉強の面でも尊敬される先輩を目指しましょう。疲れていても予習、復習を欠かさず、毎時間の授業に集中し、居眠りなど決してしない先輩こそ尊敬される先輩です。新入生からすべての意味で憧れの先輩となれるよう、気を引き締めて日々の学校生活を送りましょう。そしてかっよく**第一志望**に現役合格を果たしましょう。

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現2019]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。